

大條 和雄（だいじょう・かずお）

1、プロフィール

小説家、津軽三味線研究家。「山里の詩」で昭和45年「地上文学特別賞」受賞。「津軽三味線のルーツを求めて」（郷土史研究論文優秀賞）等、津軽三味線研究の第一人者。

<生没>

1928(昭和3)年12月8日 ~ 2020(令和2)年4月3日

<代表作>

研究『絃魂津軽三味線』『津軽三味線の誕生』

小説『ネプタの華』『スズランと零戦とおさげ髪』他

<青森との関わり>

弘前市生まれ。東奥義塾卒業。弘前市で作家活動を展開。

2、作家解説

小説家、津軽三味線研究家。昭和21(1946)年旧制東奥義塾卒業。弘前金正堂入社、販売部長などを経て退社。時計店、文芸食堂経営の傍ら、小説、津軽三味線研究の2ジャンルに活発な文筆活動を展開する。

小説の分野。同人雑誌「無名群」、今官一主宰の「現代人」等に作品を発表。昭和45年「山里の詩」で第18回「地上文学賞 特別賞」を受賞。この作品が昭和48年「緑の笛豆本の会」から発行された時、今官一が「素直な語部 大條和雄を語る」の序を寄せた。津軽名物のネプタに関心を抱き、殊にネプタ喧嘩については、祖父・父母の思い出ばなしから想をえたという。それらを『ネプタの華』（昭和50）『ザ・ねぷた』（昭和57）の2著作にまとめた。平成2(1990)年『スズランと零戦とおさげ髪』を上梓。戦時中、海軍三沢分工場へ学徒動員された時の体験がテーマ。戦中派ロマンの漂う作品となっている。平成12年短編6編を収めた『大條和雄小説集』を出版する。

津軽三味線研究の分野。昭和 59 年『絃魂津軽三味線』を出版。不明だった津軽三味線のルーツを初めて明らかにする。昭和 61 年『汝(な)、なだば 叩き三味線 木田林松栄』を出版。林松栄師に話を伺ったことが津軽三味線探究のきっかけとなる。その聞き書きである。『津軽三味線のルーツを求めて—その精神と風土』が新人物往来社主催の第 15 回郷土史研究賞の優秀賞に入賞する。研究の情熱に圧倒されたとの評をえた。なおこの作品は平成4年文芸津軽社から出版された。以降、研究の軌跡の代表的な作品を次に掲げる。『検証津軽三味線』(平成4年)『津軽三味線の誕生—民俗芸能の生成と隆盛』(平成5年)『津軽三味線を語る』(平成10年)他。昭和 59 年『ザ・ねぶた』『絃魂津軽三味線』により第9回青森県芸術文化報奨受賞。また津軽三味線歴史文化研究所所長。NHK弘前文化センター講師等、数多くの関係講師を歴任。津軽三味線研究の第一人者として活躍した。

3、資料紹介

○『津軽三味線の誕生—民俗芸能の生成と隆盛—』

図書

1993(平成5)年1月15日

195mm×133mm

津軽三味線のルーツ探究のドキュメント。荒々しく哀感を帯びた音色で激しく魂を揺さぶる津軽三味線、30 余年にわたる聞き書きを重ね、その始祖が秋元仁太郎(通称、神原の仁太坊)であることを突きとめ、ヴェールに包まれていた津軽三味線の全貌を明らかにする。